

横浜市スポーツ医科学センター
指定管理者選定評価委員会
評 価 書

目次

1. 第4期指定管理期間の基本方針.....	2
2. 第4期指定管理期間における達成目標.....	10
3. スポーツプログラムサービス（SPS）の実施体制.....	12
4. 診療体制.....	13
5. SPS・診療以外の各種事業への取組～健康維持・増進のための取組～.....	14
6. スポーツ医科学を通じた各種連携・地域貢献事業.....	17
7. 研究活動.....	19
8. 指定管理者による新規提案事項.....	21
9. 職員の確保及び配置体制の考え方.....	26
10. 職員の人材育成への取組.....	27
11. 働き方改革に対する取組.....	28
12. 修繕・備品更新に対する取組及び計画.....	29
13. 建物・設備機器の維持保全並びに管理体制.....	31
14. 安心・安全に対する取組（防火防災・事故防止体制・緊急時の対応等）.....	32
15. 市民サービス、業務水準の向上への取組（利用者ニーズの把握・改善活動）.....	34
16. 施設の開館日・開館時間等.....	37
17. 個人情報保護に対する取組.....	38
18. 情報公開・人権尊重・環境への配慮に対する取組.....	39
19. 横浜市の重要施策を踏まえた取組.....	41
20. 指定管理期間の収支計画.....	43
21. 収入増に向けた取組.....	45
22. コスト削減に向けた取組.....	46

1. 第4期指定管理期間の基本方針	
<p>提案書 (事-6)</p>	<p>「超高齢社会への対応」「健康寿命の延伸」「医療費・介護費の抑制」「子どもの体力向上」など、横浜市の様々な局・区を横断する社会課題・行政課題に対し、スポーツ医科学の知見を通じて課題解決に寄与することが求められています。第4期指定管理期間では、これらを最大限に発揮・活用して、市民の皆様により具体的に実践いただける仕組みとして構築し、さらに現実的な普及発展につなげる「社会実装」の実現を目指します。</p> <p>次の事業方針を掲げ管理運営を行ってまいります。</p> <p>〔方針1〕 横浜市健康増進・スポーツ振興に関する政策実現に向けて取り組みます。</p> <p>〔方針2〕 市民の皆様の健康に貢献するための良質なサービスを提供します。</p> <p>〔方針3〕 トップアスリート・パラアスリートの競技力向上のために一層取り組みます。</p> <p>〔方針4〕 良質な健康サービスの提供を実現する職員・スタッフの人材育成を強化します。</p> <p>〔方針5〕 新型コロナウイルス感染拡大に伴う新しい生活様式における健康づくりを強力的に支援します。</p>
<p>事業実施状況</p>	<p>〔方針1〕 横浜市健康増進・スポーツ振興に関する政策実現に向けて取り組みます。</p> <p>下記に、横浜市の政策に貢献した主な内容を列挙します。</p> <p>■ 第2期健康横浜21が掲げる「健康寿命」を延ばすこと目標に「生活習慣の改善」「生活習慣病の重症化予防」に貢献しています。</p> <p>■ 第3期(素案)健康横浜21～横浜市健康増進計画・歯科口腔保健推進計画・食育推進計画～に掲げる「健康寿命の延伸に向けて」健康課題の10項目のうち下記について事業を実施しています。</p> <p>①生活習慣病による早世減少 → 内科診療 スポーツプログラムサービス 12の健康教室 特定健康診査</p> <p>②肥満や脂質異常症の改善 → 内科診療</p> <p>④糖尿病の重症化の予防 減量・脂肪燃焼教室 運動療法 MEC (有酸素コース) 運動療法 MEC (プールコース)</p>

- ⑤禁煙・受動喫煙の減少 → 禁煙外来
- ⑦腰痛症の予防と改善 → 運動療法 MEC（膝腰コース）
筋力向上・姿勢改善教室
- ⑧骨折・転倒により介護が必要な状態となることの減少
→ 筋力向上・姿勢改善教室

■第4期横浜市地域福祉保健計画 重点項目柱2-4「幅広い住民層が取り組む地域の健康づくり活動の充実」へ向けて貢献しています。

■第5期（素案）横浜市地域福祉保健計画 第4章推進のための取組 3（3）「つながりを通じた健康づくりの推進」に貢献しています。

1 保健活動推進委員向けの研修実施

令和5年12月に横浜市18区の保健活動推進委員向けの研修として、コンディショニングトレーニング講座を実施します。

2 学校向けの活動

（1）横浜市立横浜商業高等学校（横浜市南区）

毎年度スポーツマネジメント科の約100名の学生に対して、特別講義5回、スポーツ版人間ドックの実施によるアドバイスをおこなっています。また、理学療法士が定期的に訪問し、部活動の学生を対象に年間で500件（令和4年度実績：489件）程度のコンディショニングや運動指導、障害予防の教育の個別相談を行っています。

（2）桐蔭横浜大学（横浜市青葉区）

理学療法士が定期的に訪問し、運動部活動の学生を対象に令和4年度実績で260件程度のコンディショニングやトレーニング指導を行い、スポーツ健康政策学部の学生トレーナーへの教育も実践しています。

3 健康経営への取組

令和6年度から横浜市内の企業を対象に、骨密度測定や健康指導等を実施していく計画です。

■第3期横浜市スポーツ推進計画 第3章 2 スポーツ推進に向けた取組8 「横浜市スポーツ医科学センター等との連携・活用」に基づき、スポーツ医科学のエビデンスに基づき、市民の健

康づくりを推進しています。

1 スポーツ医科学センターのホームページによる情報提供

「スポ医科発信情報」の項目の中に、バスケットボールなど種目別に「けがや障害予防のための情報」、減量や脂肪燃焼の仕組みなどの「健康・体力アップ情報」、勝つための食事などの「ヘルシーレシピ」、日本スポーツ整形外科学会や日本スポーツ理学療法学会学術大会などで発表した研究の紹介などの「リハビリ室コラム」を掲載して、広くスポーツ医科学を推進しています。

2 医師・理学療法士・科学員による研究の推進

スポーツ外傷・障害の整形外科的治療、スポーツ理学療法やスポーツ外傷・障害予防などのスポーツ医科学研究、スポーツ版人間ドックの結果等を基に、けが・障害予防や健康推進に関する研究を実施しています。

(研究例)

- ・来住野麻美 他：肘内側障害に影響を及ぼす股関節機能と投球動作中の下肢キネマティクス—学童期野球投手における前向きコホート調査—, 日本アスレティックトレーニング学会誌, 7(1), 59-65, 2021.
- ・菊川大輔, 加賀谷善教, 中田周兵, 来住野麻美, 清水邦明, 青木正人：超音波剪断波エラストグラフィ (ShearWave Elastography) を用いた膝前十字靭帯再建術後における再生半腱様筋腱弾性率の回復過程の検討, 日本整形外科スポーツ医学会誌, 42(2), 83-88, 2021.
- ・小柳玲乃：コロナ禍による高齢者の身体活動量変化と下肢筋力への影響 日本体育・スポーツ・健康学会 第71回大会 (2021)

■第3期横浜市スポーツ推進計画 第3章 2 スポーツ推進に向けた 取組8 「横浜市スポーツ医科学センター等との連携・活用」に基づき、スポーツ事故の防止やスポーツ障害の予防・早期発見に関する知識の普及啓発を行っています。

1 スポーツ医科学センターのホームページによる情報提供

「スポ医科発信情報」の項目の中に、バスケットボールなど種目別に「けがや障害予防のための情報」を発信しています。

2 学校向けの情報提供

横浜商業高校及び桐蔭横浜大学の部活動学生及びトレーナーに対して、ケガや障害予防について情報提供を行っています。

3 中高年への情報提供

現在、行っている「筋力向上・姿勢改善教室や」「減量・脂肪燃焼教室」「運動療法 MEC」の参加者へ、姿勢改善、体力維持・向上、腰痛や膝痛予防などの情報提供を行っています。

■第3期横浜市スポーツ推進計画 第3章 2 スポーツ推進に向けた 取組8 「横浜市スポーツ医科学センター等との連携・活用」に基づき、トップスポーツチームに医師や理学療法士の派遣、選手・スタッフへのメディカルサポートを実施しています。

1 横浜F・マリノスへのメディカルサポートの実施

トップチームメディカルスタッフの一員として菊川理学療法士をフルタイムで派遣し、選手の外傷や障害への対応やコンディショニング管理等のサポートを行っています。

また、育成強化カテゴリーを含む選手やスタッフのフィジカルチェック、診療ほか、全面的なメディカル支援、医科学センターの施設利用も行っています。

また、育成強化カテゴリーを含む選手やスタッフのフィジカルチェック、診療ほか、全面的なメディカル支援、医科学センターの施設利用も行っています。

令和4年度には、横浜F・マリノスはJ1リーグで優勝し、令和5年度もJ1リーグで2位の好成績を収めています。

2 横浜ビー・コルセアーズへのメディカルサポートの実施

令和3年に新たに玉置理学療法士がアスリートパフォーマンスディレクターに就任したほか、チームドクターとして清水整形外科医師・小林整形外科医師、メディカルトレーナーとして中田理学療法士を派遣し、練習及びホームゲームでスポーツ医科学支援を行っています。

2022～2023シーズンは、中地区2位となりファイナルに進出し、準決勝まで勝ち残りました。

3 日本代表（男女）ゴールボールチームへのメディカルサポートの実施

令和5年8月17日～8月27日にイギリスのバーミンガムで開催された「IBSA World Games Birmingham」に、藤堂理学療法士が男子代表チームのアシスタントコーチ兼トレーナー、彼島理学療法士が女子代表チームのトレーナーとして帯同しました。その結果、男子は金メダル（パリパラリンピック出場権獲得）、女子は銀メダルを獲得しました。また、令和5年11月13日～11月17日に中国の杭州で開催された「2023 IBSA Goalball Asia/Pacific Championships」に女子日本代表チームのトレーナーとして彼島理学療法士が帯同し、好成績の結果パリパラリンピックの出場権を獲得しました。

4 アジア競技大会及びアジアパラ競技大会におけるメディカルサポート

令和5年9月23日～10月8日に開催されたアジア競技大会（中国・杭州）に和田理学療法士と鈴川理学療法士が帯同し、選手村のメディカルルームやリカバリールームで日本代表選手のサポートを行いました。また、令和5年10月22日～10月28日に開催されたアジアパラ競技大会（中国・杭州）に藤堂理学療法士と彼島理学療法士が帯同し、サポートしたゴールボール日本代表チームは男女とも銀メダルを獲得しました。

5 その他のトップチーム

資生堂ランニングクラブ、パナソニック女子陸上競技部、横浜エクセレンス、富士通レッドウェーブ、横浜DeNAベイスターズなどの選手のメディカルサポートを行っています。

【方針2】市民の皆様の健康に貢献するための良質なサービスを提供します。

1 スポーツ医科学のエビデンスに基づく診療・リハビリ・運動療法の実施

日々、臨床で積み重ねた疑問を研究として検証するとともに、最新のスポーツ医科学に関する学術情報をアップデートし、エビデンスに基づく最新の治療を提供しています。

また、その内容は、学会や論文、書籍、講演、ホームページ等

でアウトプットしています。

[方針3] トップアスリート・パラアスリートの競技力向上のために一層取り組みます。

上記の方針1の掲載内容に追記して、下記を行いました。

1 東京2020大会のサポート

東京2020大会（2021年7月23日～8月8日オリンピック競技大会、2021年8月24日～9月5日パラリンピック競技大会）の開催にあたり、横浜市スポーツ医科学センターリハビリテーション科から計18名のスタッフが、各派遣先からの委嘱で下記の役割に従事しました。

- (1) オリンピック競技大会 日本代表選手団本部メディカルにおける活動
- (2) パラリンピック競技大会 日本代表選手団ゴールボール競技トレーナーにおける活動
- (3) オリンピック・パラリンピック競技大会 選手村総合診療所における活動
- (4) オリンピック競技大会 競技会場における活動（バスケットボール・水泳・体操）
- (5) オリンピック・パラリンピック競技大会 村外サポート拠点における活動
- (6) オリンピック・パラリンピック競技大会 組織委員会における活動
- (7) 東京2020パラリンピック競技大会 ボツワナ共和国パラリンピック陸上競技代表チームへのトレーニング会場の提供

[方針4] 良質な健康サービスの提供を実現する職員・スタッフの人材育成を強化します。

1 当センターの将来を見据えた人員配置の実施

当センターの事業の中核を支えている職員の処遇改善（正規職員の管理職員への登用、嘱託職員の無期化・固有化など）や資格取得支援などにより、計画的な人材育成やキャリアパスの構築に努めます。

(1) これまでの取組

嘱託栄養士の固有化、スポーツ科学員の課長昇任、理学療法士の部次長、課長昇任、指導員の部長・課長昇任

(2) 令和5年度の取組

科学員のH P S Cへの派遣、中長期的な人材育成制度の検討
(3) 事務分掌及び機構改革等

- ・「事務管理課」を「総務・医事課」に改称

当センタークリニック部門の支援部門を明確化し、今後想定される医療制度改革対応や診療報酬請求業務の効率化や精度向上などの取組を進めます。

- ・「企画運営課」を「事業調整課」に改称

各部署間での迅速な検討・意思決定・実践のための事業調整機能を明確にしました。

2 研修の実施

(1) 新規資格取得者1名の実績

指導員1名を資格養成講座に参加させて、健康運動指導士の資格を取得しました。

(2) 指定管理研修の実施

毎年度、10月に医療安全、人権、コンプライアンス、個人情報保護の保護、経営に関する研修を実施しています。

(3) 理学療法士の専門研修

週に2回勉強会を行い、1回目は新たな医療法情報の交換会、2回目は、研究の進捗情報研修会を行っています。

(4) 指導員の研修

理学療法士から年に2回程度、専門研修を行っています。

(5) 学会等への参加

スポーツ整形外科学会、臨床スポーツ医学会、スポーツ理学療法学会等への参加による発表や情報収集を行っています。

[方針5] 新型コロナウイルス感染拡大に伴う新しい生活様式における健康づくりを強力的に支援します。

1 診療・リハビリ・運動療法の感染防止の上での実践

新型コロナウイルスの感染防止のため、健康チェック、消毒、マスク着用、換気等による環境を確保して、来訪者に対応をしています。

2 健康づくりエクササイズの情報発信

当センターのホームページにて、おうちでエクササイズの動

	<p>画配信を行っています。</p> <p>Ex 1 下肢トレーニング編「スクワット」 Ex 2 下肢トレーニング編「片脚スクワット」 Ex 3 上肢体幹トレーニング編「ウインギングエクササイズ」 Ex 4 上肢体幹トレーニング編「ツイスト」 Ex 5 上肢体幹トレーニング編「膝つきプッシュアップ」</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜ビー・コルセアーズの活動には目を見張るものがあります。市民としてこれからのサポートをよろしくお願いいたします。 ・提案書に対する事業実施状況は高く評価できる。 ・おうちでエクササイズの動画配信はむしろ高齢者のフレイル予防に役立ちそうである。

2. 第4期指定管理期間における達成目標

<p>提案書 (事-9～11)</p>	<p>外来診療、SPS及び運動療法(MEC)において第3期指定管理期間の利用人数を上回る目標人数を設定し、その達成に努めます。</p>																																						
<p>(1) 外来診療</p>																																							
<p>単位：人数</p>	<p>R4 目標 75,000人</p>		<p>R4 実績 70,794人</p>																																				
<p>事業実施状況</p>	<p>■ 診療部門の状況</p> <p>診療部門では、新型コロナウイルス流行の影響で、内科及び整形外科、リハビリテーション科とも、減少傾向でしたが、コロナ禍にあった令和2年度から右肩上がり受診患者は増えており、令和4年度には、すべての診療科で、目標の9割以上となり、整形外科は、目標を上回りました。今後も目標達成に向けて取り組んでいきます。</p> <p><内科></p> <table border="1" data-bbox="419 1055 1402 1205"> <tr> <td>R3 目標</td> <td>4,000人</td> <td>R4 目標</td> <td>4,000人</td> </tr> <tr> <td>R3 実績</td> <td>3,183人</td> <td>R4 実績</td> <td>3,692人</td> </tr> <tr> <td>R3 達成率</td> <td>79.6%</td> <td>R4 達成率</td> <td>92.3%</td> </tr> </table> <p><整形外科></p> <table border="1" data-bbox="419 1252 1402 1402"> <tr> <td>R3 目標</td> <td>20,000人</td> <td>R4 目標</td> <td>21,000人</td> </tr> <tr> <td>R3 実績</td> <td>19,491人</td> <td>R4 実績</td> <td>21,687人</td> </tr> <tr> <td>R3 達成率</td> <td>97.5%</td> <td>R4 達成率</td> <td>103.3%</td> </tr> </table> <p><リハビリテーション科></p> <table border="1" data-bbox="419 1449 1402 1599"> <tr> <td>R3 目標</td> <td>50,000人</td> <td>R4 目標</td> <td>50,000人</td> </tr> <tr> <td>R3 実績</td> <td>39,272人</td> <td>R4 実績</td> <td>45,415人</td> </tr> <tr> <td>R3 達成率</td> <td>78.5%</td> <td>R4 達成率</td> <td>90.8%</td> </tr> </table>			R3 目標	4,000人	R4 目標	4,000人	R3 実績	3,183人	R4 実績	3,692人	R3 達成率	79.6%	R4 達成率	92.3%	R3 目標	20,000人	R4 目標	21,000人	R3 実績	19,491人	R4 実績	21,687人	R3 達成率	97.5%	R4 達成率	103.3%	R3 目標	50,000人	R4 目標	50,000人	R3 実績	39,272人	R4 実績	45,415人	R3 達成率	78.5%	R4 達成率	90.8%
R3 目標	4,000人	R4 目標	4,000人																																				
R3 実績	3,183人	R4 実績	3,692人																																				
R3 達成率	79.6%	R4 達成率	92.3%																																				
R3 目標	20,000人	R4 目標	21,000人																																				
R3 実績	19,491人	R4 実績	21,687人																																				
R3 達成率	97.5%	R4 達成率	103.3%																																				
R3 目標	50,000人	R4 目標	50,000人																																				
R3 実績	39,272人	R4 実績	45,415人																																				
R3 達成率	78.5%	R4 達成率	90.8%																																				
<p>評価委員会 コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの流行が長期間に及びましたが、受診者が増えてきているのはよかったですと思います。今後はぜひ全科目標達成を目指してください。 ・コロナ禍では上々の数字と思われます。 																																						

(2) S P S				
単位：人数	R4 目標 2, 040人		R4 実績 1, 223人	
事業実施状況	<p>■スポーツプログラムサービス（SPS）の受診者は、新型コロナウイルス流行の影響で目標値に未達ではありますが、今後も市民へ積極的に広報周知を行い、参加者増に努めていきます。</p>			
	年次	目標値	参加者数	達成率
	1年目（R3）	2, 000人	1, 232人	61.6%
	2年目（R4）	2, 040人	1, 223人	60.0%
	<p>■令和5年度にセンター内にSPSあり方プロジェクトを設置し、議論を重ね、横浜市健康福祉局に今後のSPSの方向性について、提案を行いました。</p>			
評価委員会コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・広報・周知は大事なことで積極的に取り組んでください。 ・SPSの目的・ニーズに齟齬はないか。 			
(3) M E C				
単位：人数	R4 目標 11, 110人		R4 実績 10, 265人	
事業実施状況	<p>■運動療法（メディカルエクササイズコース=MEC） 新型コロナウイルス流行の影響で目標値に未達ではありますが、令和4年度は目標値の92%まで回復しました。今後も市民へ積極的に広報周知を行い、参加者増に努めていきます。</p>			
	年次	目標値	参加者数	達成率
	1年目（R3）	11, 000人	8, 617人	78.3%
	2年目（R4）	11, 110人	10, 265人	92.4%
評価委員会コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響を受けた中で、達成率が10%以上回復したのは素晴らしいことと思います。 			

3. スポーツプログラムサービス（SPS）の実施体制	
<p>提案書 (事-12～16)</p>	<p>「メディカルチェック（医学的検査）や体力測定を行い、個人個人の健康、体力状況に合わせた運動の種類、強度、量、頻度等を考慮した運動アドバイス、個人の生活強度に合ったバランスのとれた栄養摂取を指導する栄養アドバイス、生活習慣やストレスコントロールを行うための生活アドバイスを行うこと」を目的に、下記のようなスポーツプログラムサービス（以下SPS）を実施します。</p> <p>実施した検査・測定から疾患の指標となる因子を発見し、その予防・改善に向けた効果的な運動プログラムを提供することで、医療費の削減や要支援・要介護者などの増加を抑制し、健康寿命の延伸に努めます。</p>
<p>事業実施状況</p>	<p>内科医、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、科学員、指導員の構成員によって、SPSの医学的検査及び体力測定を行っています。</p> <p>参加者の検査・測定結果により、内科医による診察や、管理栄養士、科学員による日常生活改善や運動実践のアドバイスを行っています。</p> <p>カウンセリング後には、個人の身体の状態により、当センターの「運動療法MEC」「減量・脂肪燃焼教室」「筋力向上・姿勢改善教室」「プールやトレーニングルームの個人利用」等をご紹介します、運動の継続を促しています。</p> <p>また、居住地が遠方の参加者の方には、最寄りのスポーツセンターの利用や身近にできる運動実践について、アドバイスを行っています。</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平均寿命と健康寿命の差が小さくなることを願います。 ・コロナ禍を経て、利用者ニーズは変わってきています。SPSについては、利用者ニーズを再検討するなど状況の変化に対応していく必要があると思います。

4. 診療体制	
提案書 (事-17~22)	<p>医療法をはじめとする各種法令を遵守し運営を行います。標榜科は内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科とし、クリニックは臨時の場合（学会・出張等）を除き、予約の必要なくいつでも診療対応することとします。また、土曜日の終日診療等により、幅広い層の患者さんに診療を受けていただくことができます。</p>
事業実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ■ 医師法、保健師助産婦看護師法、栄養士法、診療放射線技師法、臨床検査技師等に関する法律、理学療法士及び作業療法士法、医療法、健康保険法、薬機法等を遵守して管理運営を行っています。 ■ 標榜科は内科・循環器内科・整形外科・スポーツ整形外科・リハビリテーション科としています。 ■ 整形外科は、随時3人診療体制を目標として実施しており、内科については、SPSを並列して実施しているため、予約制で診療を行っています。 ■ 診療日は、月・水・木・金曜日の他に、会社勤めの方や学生の方の利便性を図るため、土曜日も診療を行っています。 ■ オンライン資格確認システムを令和4年3月1日に導入しました。 ■ 令和5年4月から医療システム（「電子カルテ・オーダーリングシステム」「健診システム」「画像管理システム」「リハビリテーション管理システム」「検体検査システム」「運動処方管理システム」「医事会計システム」）を新たに稼働して、医事事務の効率化と情報の共有化を図っています。
評価委員会 コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜日に終日診療が受けられるのは素晴らしい。患者さんからのニーズは高いと思います。

5. S P S ・ 診療以外の各種事業への取組～健康維持・増進のための取組～

提案書
(事-23～27)

運動療法～メディカルエクササイズコース～(MEC)、教室事業、センター独自プログラム事業、情報発信、レンタル・自販機、アスリート(トップ・パラ)支援・メディカルチェック等の事業を行います。

事業実施状況

■運動療法MEC

- ・運動療法MECは、内科系、整形外科系の疾患に対する処方として行うもので、プールMEC、有酸素運動MEC、膝腰MECに分かれています。
- ・コロナ禍で減少した参加者数は、令和2年度から右肩上がりが増えていきます。

年次	プール	有酸素	膝腰	合計
1年目(R3)	1,605人	2,691人	4,362人	8,658人
2年目(R4)	1,919人	2,701人	5,645人	10,265人

■スポーツ教室事業

- ・体操・水泳教室においては、初心者向けのクラスから競技選手を目指すクラス(選手コース)を設定し、参加者の目標に応じたクラス設定を設けています。競技選手コースでは、ジュニア世代の選手育成に積極的に取り組んでいます。
- ・体操教室の選手コース(男子中学生の部)では、全国各地から有力選手が集まるAJGという大会の団体で3連覇を果たしました。

年次	体操	水泳	筋力向上	健康	合計
R3	26,177人	29,221人	4,784人	3,406人	63,588人
R4	27,213人	25,718人	5,916人	5,055人	63,902人

■センター独自プログラム事業

- ・一般市民アスリート向けサービスとして、「ランニング測定」に加え「バイク測定」を実施予定です。
- ・少年野球クリニックの内容を改めて、エコー撮影の他に、スピードガンやハイスピードカメラを加えて、機能評価や投球動作をさらに精密にできるようにしました。

■情報発信

- ・ホームページでさまざまなスポーツ医科学情報を提供するとと

もに、「新横浜新聞」「タウンニュース」などを活用して事業等の紹介をしています。

- ・令和5年10月からX（旧ツイッター）を開始しました。

■ レンタル・自動販売機

- ・レンタルでは、引き続きシューズロッカーのレンタル事業を月700円で実施しています。（72か所の内40か所の稼働）
- ・自動販売機は、令和4年度に飲料とアイスの他に、コーヒー等専用機を1台及び食品専用機を1台追加し、さらに令和5年度に食品専用機を1台増やしました。その結果、自動販売機の売り上げが、月に7万円から15万円程度になりました。

■ トップアスリートへの支援

トップアスリートに対する競技力向上においては、次のとおり取り組んでおります。

1 市内プロスポーツチームへの支援

(1) 横浜F・マリノス（サッカー）への支援

- ・トップチームへの理学療法士の派遣（フルタイム）
- ・選手に対するメディカルチェック
- ・選手（育成年代含む）のトレーニング・25mプール等の施設利用

(2) 横浜ビー・コルセアーズ（バスケットボール）への支援

- ・練習やホームゲームへのメディカルスタッフ派遣（整形外科医師と理学療法士）
- ・選手に対する各種メディカルチェック・医療の提供

2 パラアスリートへの支援

(1) ゴールボール男女日本代表チームへの支援

ゴールボール男子代表チームのアシスタントコーチ兼トレーナー、女子代表チームのトレーナーとして理学療法士を派遣し、国際競技大会にも帯同しています。

(2) パラアスリートメディカルチェック

日本パラリンピック委員会（JPC）のメディカルチェック機関に認定され、パラアスリートのメディカルチェックを行っています。

評価委員会 コメント	<ul style="list-style-type: none">・これらの取組みで市民の運動に対する意識が高まってくることは素晴らしいと思います。・トップアスリートからパラアスリートまで広く対応しており高く評価できる。
---------------	--

6. スポーツ医科学を通じた各種連携・地域貢献事業	
<p>提案書 (事-28~32)</p>	<p>スポーツ医科学センターは、横浜市スポーツ協会が運営する区スポーツセンターで市民が身近に医科学的なサポートが受けられる環境づくりを支援します。</p> <p>また、様々な関係団体との連携を推進することで、設置趣旨である「市民の健康づくりの推進」「スポーツの振興」「競技選手の競技力向上」をさらに加速させます。</p>
<p>事業実施状況</p>	<p>■当協会が管理するスポーツセンターとの連携</p> <p>1 指導員への研修実施 毎年度、1月から3月にかけて、指導員を対象に当センターの理学療法士が整形外科的なケガや障害の予防について、研修を行っています。</p> <p>2 運動療法MECを活用した事業の展開 スポーツセンターでは、運動療法MEC膝腰コースのプログラムを活用した健康教室を実施しています。</p> <p>3 指定運動療法施設の提供医療機関としての役割 当協会が管理するスポーツセンターは、健康増進施設・指定運動療法施設になっており、心臓リハビリテーションの施設として位置づけられている当協会管理施設のスポーツセンターを支援しています。</p> <p>■様々な関係団体との連携</p> <p>1 スポーツ団体との連携 日本スポーツ協会、神奈川県スポーツ協会、日本障害者スポーツ協会、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会や競技団体との連携により、東京2020大会（オリンピック・パラリンピック）をはじめ、様々な大会に医療スタッフとして、サポートしています。</p> <p>2 医師会（日本・県・横浜市・港北区）や各種学会との連携 医師会にセンター長らが所属して、改定される法律や治療法、新薬等の情報を得ています、また、医師、理学療法士、管理栄養士、科学員が、各種学会に参加、発表し、新たなエビデンスなどの情報を交換しています。</p> <p>横浜スポーツ医会とは、センター長が、令和5年7月に研修会</p>

	<p>の講師を務めるなど、当センターの実績や事業の紹介、スポーツセンターでの医事相談の実施などを行っています。</p> <p>3 地域との連携</p> <p>港北区や町内会が開催する港北ふれあいまつりに参加したり、横浜マラソンやトライアスロン国際大会等に出張ブース(コンディショニング相談会)を設けたりしています。また、当協会の加盟する52の横浜市の競技連盟に対して、登録団体情報交換会において交流を行っています。</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他団体との交流は大切なことと思います。 ・日本のアスリートが世界で高い評価を受けております。アスリートが世界で活躍するためにも、貴施設の果たす役割は大きいものと思われます。 ・協会が管理するスポーツセンターとの連携強化は高く評価できる。

7. 研究活動	
提案書 (事-33~35)	<p>スポーツ医科学センターで市民の皆様やスポーツ選手向けにSPSをはじめとした各種測定を25年にわたり取り組んできました。その蓄積されたデータを活用し、市民の健康づくりやスポーツの振興に役立つ研究を推進し、様々な事業実施に役立てます。</p>
研究成果	<p>■ 題目「コロナ禍による高齢者の身体活動量変化と下肢筋力への影響」 日本体育・スポーツ・健康学会 2021年発表</p> <p>【研究方法】 『スポーツ版人間ドック Sports Program Service (以下、SPS)』受診者のうち特に高齢者を対象に申告型の活動量調査を実施し、自粛期間前、期間中、期間後の身体活動量変化を解析した。また、SPSをコロナ禍以前から継続的に受診している高齢者を対象に、体力測定のうち下肢筋力測定について結果を比較し、コロナ禍の影響を検討した。</p> <p>【研究結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍は、「激しい運動」要素の低下が著しく、自粛後にはある程度回復したものの、元の水準に戻っていないことが示された。 ・高齢者の多くは、睡眠時間も変化がなかったため、日常生活のリズムにはコロナ禍はあまり影響を与えなかった可能性がある ・不活動による歩行頻度の低下、歩行量の減少により大腿二頭筋(ハムストリングス)への刺激が減少したために屈曲トルクの低下が助長されたのではないかと考えられる。以上のことから、下肢の筋力トレーニングとともにウォーキング等の実施を促すことも重要であると考えられる。 <p>【研究結果の活用方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでこれらの研究内容を掲載して、市民に呼び掛けるとともに、「日本体育・スポーツ・健康学会」に令和3年に発表した。また、当センターの利用者や患者に、コロナ禍及びアフターコロナに向けて、下肢筋力の強化及びウォーキングの実践をスタッフが呼びかけました。
事業実施状況	<p>■ 研究の実施状況 診療部と健康科学部では、3年度11件、4年度12件、5年度10件の研究に取り組んでいます。</p> <p>※詳細は、ホームページ及び年報で公表しています。</p> <p>【学術実績】 R3-R4年度</p>

	学術実績名	R3 件数	R4 件数	発表職員
	原著論文（国際誌）	5 件	1 件	理学療法士
	原著論文（国内誌）	3 件	1 件	理学療法士
	総説・解説	3 件	－	理学療法士
	著書（編著・監訳・分担執筆）	3 件	6 件	理学療法士
		1 件	－	スポーツ科学員
	学会発表（演題）	5 件	18 件	理学療法士
		1 件	－	スポーツ科学員
	<p>【現在取り組んでいる研究例】</p> <p>（例 1）スポーツ版人間ドック（SPS）受診者の身体活動量について 科学員：健康科学課担当課長</p> <p>（例 2）SPSデータに基づく短期的な体力予測モデルの評価・検討 科学員：H氏</p>			
評価委員会 コメント	<p>・高齢化社会においては健康寿命をのばすことが医療費削減のためにも必要かと思われます。そのためにも果たす役割は大きいと思われます。</p>			

8. 指定管理者による新規提案事項	
提案書 (事-36~40)	スポーツ医科学センターとして、3つの新規事項、14の拡充事項について提案を行っています。
事業実施状況	<p>■ 1 産官学連携の推進【拡充】</p> <p>「横浜ライフイノベーションプラットフォーム（L I P. 横浜）」の参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ科担当課長がデジタルヘルスケア分野の新技术・新製品の開発を支援する専門家集団の一員に任命され、月に1回活動を行っています。 ・北里大学と「臨床データや研究資源の活用、双方の人材育成」を目的とした連携協定を締結して、現在研究を進めています。 <p>■ 2 健康経営</p> <p>(1) 市内企業向けの S P S の実施</p> <p>市内企業向けに、S P S を企業仕様に改良した「健康企業 S P S (仮称)」の実施に向けて、令和5年6月から10月にプロジェクトを作成して、今後の S P S のあり方について提言書をまとめて横浜市健康福祉局に提出しました。</p> <p>(2) 市内の企業・事業所へ講師派遣</p> <p>従業員等の健康づくりを経営的な視点から考え、戦略的に実践し「健康経営」に取り組む事業所に対して、今後、横浜市健康福祉局と連携して市内の企業・事業所に P R し、講師派遣を行います。</p> <p>令和6年度には、横浜市健康福祉局と共同で、市内事業所10か所程度に骨密度測定を行い、健康指導を行う予定です。</p> <p>■ 3 心臓リハビリテーションの推進【内科 M E C の拡充】</p> <p>横浜市医療局が5年計画で展開する「横浜市疾病対策事業心臓リハビリテーション事業（ハートの強い横浜を作る）」について、横浜労災病院と連携し事業を推進していくため、横浜労災病院の医師が講師となって、令和4年2月4日に Z o o m 研修を実施しました。</p> <p>令和3年度は4名、令和5年度は1名の患者を受け入れました。連携先は横浜労災病院（2名）だけでなく、横浜市立市民病院（2名）、けいゆう病院（2名）からも患者が来ています。</p> <p>受け入れた患者は、令和4年4月から12月までの間に、延べ</p>

70回の利用がありました。

■ 4 電子決済【新規】

令和5年4月から、クリニックでの支払いは現金のみの取り扱いとしていたものを、電子決済システムを導入しました。

【利用できる電子決済】

クレジットカード・交通系電子マネー（suica・PASM O）・デビットカード・nanaco・WAON等

■ 5 予約システム（施設・教室）の導入について【新規】

（1）施設予約システム

現在、施設利用申込は、電話及び窓口での申込となっておりますが、令和5年度中に導入を試みて、3社と詳細の打合せを行い、見積書を取り合わせたところ、横浜市市民利用施設予約システムの導入とかかる経費がほとんど変わらないことがわかりました。また、横浜市市民利用施設予約システムの機能が拡充して、クレジットカード等電子決済機能が今後可能になることから、横浜市に導入について、検討中です。

（2）教室予約システム

教室申込は、はがき・メールまたは窓口での申込となっております。教室申込システムの導入は、令和6年度中の稼働に向けて、準備を進めています。

運動療法MECの予約については、令和5年5月からスマートフォンやパソコンで予約ができるシステムを導入しました。

■ 6 スポーツ医科学の遠隔サポート【拡充】

新型コロナウイルスが流行後は、協定を結んでいる桐蔭横浜大学（サッカー部）、横浜市立横浜商業高校、当協会内連携で定期的に訪問している横浜銀行アイスアリーナ（フィギュアスケート選手）に対して、直接的な訪問の他に、オンラインで選手のコンディショニングやトレーニングのサポートを行っています。

また、当センターのホームページ上にて、「おうちでエクササイズ」の動画や「なぜケガが起きるのか（医科学研究）」の機序と予防について、情報提供を行っています。

さらに、自主事業で行った認定理学療法士取得講座での ZOOM

活用や、当協会イベントオンラインフェス講師による ZOOM 活用をしています。

■ 7 マラソン講座を実施【拡充】

令和4年度のスポーツ・レクリエーションフェスティバルにおいて走り方教室や10m走測定の実施や、令和4・5年度に、旭区民を対象にしたランナーのための栄養講座を実施しています。

また、令和4年に東京マラソン財団公式クラブ ONE TOKYO と連携し、ランニング測定+座学&実技講習のプログラムを実施しました。

そして、通年で行っているランニング測定において、①はじめてマラソン大会に出るランナー向け、②フルマラソンを完走したいランナー向け、③ベストタイムを出すためのランナー向けに測定とアドバイスを行っています。

■ 8 ウォーキング教室【拡充】

筋力向上・姿勢改善教室の中で、ウォーキング指導を実施しているとともに、SPS（スポーツ版人間ドック）でも、10m歩行測定によるアドバイスを実施しています。

今後も、「しっかり体力づくり」「歩き方チェック」「自然観察」などを盛り込み、参加者が季節を感じながら楽しくウォーキングできるよう取り組んでいきます。

■ 9 公園内設置飲食店と協力したヘルシーレシピ【新規】

令和5年度中に、新横浜公園内に設置されている飲食店と協力して当センターの管理栄養士の監修のもと、レシピを開発して作成・提供する予定です。

■ 10 新横浜公園（日産スタジアム）との連携【拡充】

今までは、新横浜公園（日産スタジアム）でのテロ対策や火災訓練が主でしたが、当センターを中心にした大規模火災訓練を令和5年11月22日に実施しました。

今後も、姿勢改善・筋力測定教室で、日産スタジアムのトラックを使用させていただくなど、事業連携をさらに推進し、相互の事業強化を図ります。

■ 11 スポーツ医科学に関する学科設置高校の体験学習受入【拡充】

毎年度、大阪府立桜宮高校の人間スポーツ科学科サイエンスコースの体験学習を受け入れ、将来の進路選定の一助となるよう協力しています。

令和4年度は、12月15・16日に行い、サイエンスコース2年生計37名を対象に実習（リハ・MEC・運動負荷試験・体力測定）および講義（栄養・リハ・科学）を行いました。令和5年度も同じく12月14・15日に実施しました。

■12 家族全員で一緒に当センターを訪れて参加できるイベント開催【拡充】

令和4・5年度に行われたスポーツ・レクリエーションフェスティバルで、家族全員が一緒に楽しめる体力測定や走り方改善教室、10m走測定を実施しました。

■13 ジュニア指導者向けけが予防講座【拡充】

ジュニアベースボールプログラム（旧：少年野球クリニック）では、最新の測定機器を導入して、ジュニア選手、指導者、保護者がけが予防のためのセルフチェック方法やコンディショニング方法を学ぶ機会となっています。

令和4年度実績 12月27日

令和5年度実績 8月16日、12月23日

■14 ショートタイムトレーニング教室【拡充】

令和5年度にトレーニング室において、単発で3つのショートプログラム（①ストレッチポール②カラダほぐし（姿勢改善）③カラダほぐし（運動機能向上））を実施しました。今後は、これらの事業の損益計算を踏まえ、事業の定例化も検討していきます。

■15 区スポーツセンターと連携した「転倒骨折や膝・腰痛」予防教室【拡充】

スポーツ医科学センターで開発した運動療法MECのプログラムをもとに、膝・腰痛などを予防する教室を、金沢スポーツセンターなどで実施しています。

■16 特定保健指導受診者への特典【拡充】

当センターでの特定保健指導受診者に対して、運動実践の場として各教室や施設へ参加・利用の動機づけのため、1回無料券

	<p>(トレーニング室・プール・筋力向上・姿勢改善教室)を配布しています。</p> <p>■17 アスリート測定の実施日の拡充【拡充】</p> <p>日曜日に体力測定実施を希望するアスリートのニーズに応え、令和5年1月から日曜日にも実施日を設定し、アスリート測定の利便性の拡充を図っています。</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<p>・様々な取り組みを行っていることは評価できます。費用対効果また、利用者の満足度等についてももしっかり評価していく必要があると思われれます。</p>

9. 職員の確保及び配置体制の考え方	
<p>提案書 (事-42～45)</p>	<p>スポーツ医科学センターは、スポーツに関する様々な事業が実施可能な日本でも有数のスポーツ複合施設であるとともに、厚生労働大臣が認定する運動型健康増進施設、指定運動療法施設の認定も受けており、平成10(1998)年の開設以来、着実に成長を遂げてきました。当協会は、開設当初から運営を担ってきた中で、最良のサービスを提供するための医療職やスポーツ科学員等の高度かつ専門的な人材を多数確保・育成し、これまでに培った独自のノウハウを蓄積して、サービス実施に還元しています。</p> <p>開設から25年が経過し、時代とともに事業の多角化・多様化が進む中、今後もより良いサービスを提供するよう、指定管理者申請要項(p.3「(3)職員配置及び経費等(事業実施を支える体制)」)に示されるとおり、必要な常勤・非常勤職員を配置し、施設の運営に支障のないよう業務形態を定めるとともに、中長期視点で職員の人材育成と確保ができる雇用機会の創出に努めます。</p>
<p>事業実施状況</p>	<p>■運動型健康増進施設、指定運動療法施設の認定も受けての事業展開</p> <p>運動療法MECは、内科系、整形外科系の疾患に対する処方として行うもので、プールMEC、有酸素運動MEC、膝腰MECに分かれて実施しており、医療費控除の対象事業としています。</p> <p>■必要な常勤・非常勤職員を配置</p> <p>指定管理者申請要項及び業務の基準のとおり、管理運営責任者としてセンター長を1名配置し、内科医師、整形外科医師、臨床検査技師、診療放射線技師、看護師、管理栄養士、理学療法士、健康運動指導士を配置しています。</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<p>・人材については、少子高齢化社会においてはどんな組織にとっても重要な経営課題となってきます。長期的な視点に立って、採用、教育を行うようにお願いします。</p>

10. 職員の人材育成への取組	
提案書 (事-46～48)	センターで働く高度・専門人材は、最も重要な財産です。人を大切にす組織運営を目指し、人材育成に対し積極的に投資を行います。継続的な人材育成の成果を、市民サービスの向上として還元することで、質の高いサービスの提供を図ります。
事業実施状況	<p>■継続的な人材育成の成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの取組 嘱託管理栄養士の固有化、スポーツ科学員の課長昇任、理学療法士の部次長、科長昇任、指導員の部長・課長昇任を実施しました。 2 令和5年度の取組 科学員をHPSCへ派遣しています。また、中長期的な人材育成制度の検討をしています。 3 新規資格取得者1名の実績 指導員1名を資格養成講座に参加させて、健康運動指導士の資格を取得しました。 4 理学療法士の専門研修 週に2回勉強会を行い、1回目は新たな医療法情報の交換会、2回目は研究の進捗情報研修会を行っています。 5 指導員の研修 理学療法士から年に2回程度、専門研修を行っています。 6 学会等への参加 スポーツ整形外科学会、臨床スポーツ医学会、スポーツ理学療法学会等への参加による発表や情報収集を行っています。
評価委員会 コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保（特に専門職）は今後特に重要な課題となってくるものと思われます。サービスの質を維持するためにもしっかりと対策を行う必要があると思われます。 ・学会等の参加費用は一律3万円をセンター負担とし、それ以外は個人負担とのことですが、学会等で新たな情報を得ることは大変重要ですので場合によっては、特別な予算を充てる等の検討をよろしくお願いします。

11. 働き方改革に対する取組	
<p>提案書 (事-49～50)</p>	<p>横浜市スポーツ協会では、「次世代育成支援対策推進法」及び「女性活躍推進法」に基づく（公財）横浜市スポーツ協会行動計画を策定（令和元(2019)年7月）し、誰もが安心して働くことができる職場環境整備を行っています。</p> <p>令和元（2019）年度は、長時間労働の抑制について、所定労働時間内での勤務を達成、年次有給休暇の取得について100%達成できました。引き続き、本計画に沿って着実に推進してまいります。</p> <p>また、労働安全衛生環境の保持について、労働安全衛生法に基づく「衛生委員会」を設置し、毎月1回、労働者代表の衛生委員、産業医、衛生管理者による委員会を開催するなど職場環境の向上に努めます。</p>
<p>事業実施状況</p>	<p>■長時間労働の抑制</p> <p>超過勤務は、月額45時間以内、年間360時間以内を原則としています。令和5年度当初からの電子カルテ等医療システムの稼働に向けて、4年度末は通常業務に加え、稼働に向けた業務が重なったため、開発の中心となる数人の超過勤務が増える傾向にありました。</p> <p>令和4年度年間超過勤務360時間以内率 84%</p> <p>■年次有給休暇の取得</p> <p>有給休暇は、5日以上の取得はもとより、リフレッシュ休暇を5日以上として、合計10日以上の取得を目指して、実践しています。</p> <p>令和4年度有給休暇5日以上取得率 100%</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<p>・人材の確保（特に専門職）は今後特に重要な課題となってくるものと思われます。サービスの質を維持するためにもしっかりと対策を行う必要があると思われます。</p>

12. 修繕・備品更新に対する取組及び計画

<p>提案書 (事-52～53)</p>	<p><修繕計画> 指定管理者では100万円未満の小破修繕は独自で行い、お客様が快適にご利用できるよう迅速に対応します。また、100万円を超える大規模修繕は、申請要項のリスク分担に基づき横浜市で修繕対応いただくことから、横浜市と協議を行い、優先順位をつけて修繕対応します。</p> <p><備品更新計画> 開設から25年が経過し、経年劣化が著しい備品類の更新が必要となっております。機器によっては、メーカーによる修繕のための部品等保存年限が終了し、修繕対応できない備品があることから、計画的に更新しお客様が安心してご利用できる施設運営に努めます。</p>
<p>事業実施状況</p>	<p>■修繕計画</p> <p>1 小破修繕 100万円未満の小破修繕は、適宜実施しています。</p> <p>2 修繕実績 お客様の利便性向上に向けた指定管理者の費用による積極的改修を実施しています。 (令和5年度実績例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ室のバイオデックス3修理 188,848円 ・放射線室の日立一般X線撮影装置管球交換修理 2,450,250円 ・大研修室・中研修室の音響設備交換修理 990,000円 ・小アリーナの跳馬用アンカー設置 104,500円 ・リハビリ治療機器「ニーラックス3」の修理 192,060円 <p>3 大規模修繕 100万円を超える修繕が見込まれる事案については遅滞なく横浜市へ報告を行っています。また、修繕にかかる様々な情報(技術的情報・概算修繕費用)を横浜市へ提供し、横浜市の予算措置対応を支援しています。 横浜市と調整の上、令和5年度予算で横浜市から追加予算をいただき、令和6年3月に工事(更衣室床修繕)を実施する予定です。</p>

	<p>■備品更新計画</p> <p>1 更新計画</p> <p>経年劣化する高額な備品について、更新計画を横浜市へ提出して協議させていただき、予算は配賦を受けて計画的に実施しています。</p> <p>(令和5年度実績例) ※リース調達ですが、金額は総額です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磁気共鳴画像装置 (MRI) 143,154,000 円 ・等速性筋力測定装置 16,225,000 円 ・血中乳酸分析装置 3,223,000 円 ・超音波骨評価装置 2,090,000 円 <p>2 備品廃棄</p> <p>全部門で組織的に「5S運動(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)」に取り組み、使用不能な備品については、横浜市へ申請の上、随時廃棄を行っています。</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高騰により当初予算より大幅に上回る修繕が今後予想されます。日頃から物品の管理を適切に行い、横浜市への相談、報告など早めに対応することも必要かと思われます。 ・利用者の増加により、修繕更新が大変になると思いますが、市からの支援を受けながら計画的に進めてください。

13. 建物・設備機器の維持保全並びに管理体制							
提案書 (事-54)	<p>スポーツ医科学センターは日産スタジアムの施設の一部であることから、日産スタジアム指定管理者と共同で実施することで効率的な建物保全を行います。また、第4期から毎週火曜日を施設点検日として建物維持保全を行う日とします。</p> <p>医療機器の保守については、診療に影響が及ばないようメーカーによる保守点検を実施します。特に高額医療機器の不具合を発見し、修繕等が必要な場合は、横浜市へ協議を行い迅速に対応します。</p>						
事業実施状況	<p>■施設点検</p> <p>第4期から毎週火曜日を施設点検日として建物維持保全の実施を予定していましたが、トレーニング室・プール個人利用等の施設利用ニーズに応えるため、横浜市と協議し、第3期と同様、最低限の休館日で建物維持保全を行うこととしました。</p> <p>■医療機器の保守</p> <p>診療に影響が及ばないようメーカーによる保守点検を実施し、特に高額医療機器については、予防保全に基づき、計画的な機器更新を実施しました。</p> <table border="0"> <tr> <td>例) X線骨密度測定装置</td> <td>令和4年4月更新</td> </tr> <tr> <td>心臓運動負荷モニタリングシステム</td> <td>令和5年3月更新</td> </tr> <tr> <td>MR I 装置</td> <td>令和5年7月更新</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">など</p>	例) X線骨密度測定装置	令和4年4月更新	心臓運動負荷モニタリングシステム	令和5年3月更新	MR I 装置	令和5年7月更新
例) X線骨密度測定装置	令和4年4月更新						
心臓運動負荷モニタリングシステム	令和5年3月更新						
MR I 装置	令和5年7月更新						
評価委員会 コメント	<p>・社会的情勢により医療機器については今後さらにメンテナンスの重要性が増すと思われます(円安による機器高騰、戦争・伝染病等により必要部品の入手ができないなど)。医療機器の保守については、早めの対応が特に必要になると思われます。</p>						

14. 安心・安全に対する取組（防火防災・事故防止体制・緊急時の対応等）	
提案書 (事-55～57)	お客様の安全・安心を第一に、防火防止体制、事故防止体制、緊急時の対応、有事発生時の事業継続体制、事故発生時の補償体制、激甚災害発生時の対応、新型コロナウイルスの感染拡大防止に対する取組を行ってまいります。
事業実施状況	<p>■防火防止体制</p> <p>日産スタジアム防火防災協議会の管理の下、共同防火防災体制を構築し、有事の際緊密な連携により初動対応を滞りなく行いお客様の安全・安心に努めています。</p> <p>法定の消防設備点検・避難誘導訓練・その他有事の際の避難誘導実施体制の徹底を図りお客様の安全・安心に努めています。</p> <p>■事故防止体制</p> <p>1 「医療安全管理マニュアル」を刷新 令和4年8月に「医療安全管理マニュアル」を刷新して、10月14日・21日に説明会を行いました。</p> <p>2 医療安全管理委員会を設立 令和5年度に医療安全管理委員会を設立し、7月28日、8月31日に安全管理に向けた会議を行いました。</p> <p>3 患者様への本人確認 令和5年度は、患者様の氏名と生年月日の確認の徹底を含めた研修会を10月に2回行いました。</p> <p>4 医療以外の安全マニュアルの刷新 医療以外の安全マニュアル【第6版】を刷新管理職会議で説明して職員へ周知しました。</p> <p>5 職場内情報共有 事故事例については職場内で情報共有を行い、再発防止を図っています。また、横浜市スポーツ協会内で発生した事件・事故については、協会内イントラネットで情報共有を図り、類似事故の防止に努めています。</p> <p>■緊急時の対応</p> <p>1 当センターと横浜市との緊急連絡体制</p>

	<p>当センター主要責任職と所管局（健康福祉局健康推進課）職員との緊急連絡網を作成し、有事の際は携帯メールまたは電話で連絡を行い、情報共有を図っています。</p> <p>2 当センターと新横浜公園との緊急連絡体制</p> <p>新横浜公園指定管理者及び日産スタジアム防災センターとの緊急連絡網を作成し、鶴見川の越流をはじめ、有事の際は携帯メールまたは電話で連絡を行い、情報共有を図っています。</p> <p>■有事発生時の事業継続体制</p> <p>地震や風水害等での激甚災害発災時や感染症の大規模流行等により長期間事業継続することが困難な状況になった際は、横浜市との連携を緊密に行い、提供可能なサービスの維持に努めています。</p> <p>■事故発生時の補償体制</p> <p>事業計画書の提案通り、施設賠償及び教室等に関する保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険に加入しています。</p> <p>■激甚災害発生時の対応</p> <p>当センターは横浜市との協定に基づき「帰宅困難者受入」施設として位置づけられております。激甚災害が発生し、多数の帰宅困難者が発生した場合は、横浜市及び新横浜公園指定管理者と協力し、帰宅困難者の受入対応を行う準備をしています。</p> <p>■新型コロナウイルスの感染拡大防止に対する取組</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図りながら運営に取り組んできました。</p> <p>これからも当センターでは、感染症拡大防止対策について、状況に応じた最新かつ必要十分な対応を継続し、お客様に安心してご利用いただけるよう取り組んでいきます。</p> <p>現在も各室前に手指消毒用アルコールの配備、換気の実施、医療エリア内でのマスクの着用推奨、総合・クリニック・リハビリの受付に感染防止用ビニールカーテンを取付けています。</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新年早々に大きな地震がありました。以前は鶴見川の越流があったエリアですが、災害はいつ起こってもおかしくありません。しっかりと対策をお願いします。 ・受診者のリスク管理の再確認をしてください。

15. 市民サービス、業務水準の向上への取組 (利用者ニーズの把握・改善活動)	
提案書 (事-58-60)	個人利用事業、貸し館事業 (研修室・アリーナ)、情報展示室・ライブラリー、モニタリングやお客様からの提言による改善活動等を通じて、より一層の市民サービス、業務水準の向上への取組を図ります。
事業実施状況	<p>■個人利用事業</p> <p>1 トレーニングルーム</p> <p>トレーニングルームでは、健康の維持増進を目的とした方から、競技力向上を目的とするトップアスリートまで対応できるように、健康増進施設、指定運動療法施設として登録し、健康運動指導士やスポーツプログラマーなどの運動指導員を配置しています。</p> <p>個人利用では、初めて利用する方には、初回に講習を受講していただき、希望者全員に個別の運動プログラムを作成しています。</p> <p>また、利用促進を図るため、令和4年10月から5回利用すると1回無料になるスタンプカードや令和5年9月から濱ともカードによる割引利用を行っています。</p> <p>その他、トレーニングルームは、運動療法 (MEC)、減量・脂肪燃焼教室、筋力向上・姿勢改善教室等で利用しています。</p> <p>トレーニング機器は、年に1回の専門業者による点検のほか、毎朝の始業前点検を必ず行い、安全には万全を期して管理運営を行っています。</p> <p>2 25mプール</p> <p>25m室内温水プールは年間を通じて水温・室温 (27℃~30℃) に設定して、子どもから大人まで安全に利用できるようプールフロアーを常設しています。水面監視には、泳力があり、普通救命講習修了証を保持した水面監視員を常時3名配置しています。お客様が安全に安心して25mプールをお使いいただけるよう「遊泳用プールの衛生基準」に基づき衛生管理を徹底し、専門業者による清掃及びスタッフによる日常清掃を行っています。また、1時間ごとに室温、水温、塩素濃度などの検査を行い、異常時には即時対応しています。</p> <p>一般個人利用では、常時、「遊泳コース」と「ウォーキングコース」を設置しています。個人で利用されるお客様の数や教室参加状況により、コース数を増やすなど柔軟に対応します。</p>

個人利用のほか、運動療法MEC（プールコース）、スポーツ教室（水泳教室、アクアビクス教室）を実施しています。

■貸し館事業（研修室・会議室・アリーナ）

1 研修室・会議室

スポーツ団体や企業などへ研修会や会議などを行う会場として、貸出を行っています。空き時間には、スポーツ傷害、栄養学などをテーマとしたスポーツ医科学講座の開催やハワイアンキルトなどの文化系教室を開催し、多様な目的に対応しています。

令和5年10月から研修室に鏡や音響を設置して、軽スポーツの利用などの貸出ができるように、使用用途の拡大を行いました。

2 アリーナ

大アリーナでは、柔軟性やバランス感覚を養う大人向けの教室やMECの有酸素運動コースの実施会場として活用しています。小アリーナでは、スポーツ団体等が行う運動実践の場として貸出を行っています。また、平日に運動実践の場として、様々な種目の健康教室を開催しています。

■モニタリングやお客様からの提言による改善活動

1 利用者や患者へのアンケート調査の実施

年に1回、施設内利用者のモニタリング（アンケート調査）を行い、利用者の利用目的や利用回数、当センターの事業やサービス面での評価、施設全体を通じた満足度を調査しています。

アンケートの集計結果は、全職員で共有し、部署ごとに再度持ち帰り検討を行い、改善・改良した点については、館内に掲示しています。

2 お客様からの提言（広聴活動）

いつでもお客様からの提言を承れる体制として「お客様の声」を館内複数個所に配備し、館内掲示またはお客様に直接回答し、運営改善に活かしています。

3 モニタリングやお客様からの提言による改善活動
（改善内容例）

・研修室・会議室の使用用途の拡大

令和5年10月から、研修室・会議室の利用促進のため、会

	<p>議だけでなく軽運動の利用が出来るように、諸室で音響と鏡の貸出ができるよう整備しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者割引の実施 <p>トレーニングルームの個人利用において、高齢者が利用を継続しやすくなるよう、濱ともカードの優待割引価格を設定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プール観覧席の椅子増設 <p>お客様の声に応え、プール観客席とロビー待機席を増設し、利用者が快適に過ごせるよう改善しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報展示の実施 <p>総合受付前で「スポーツ川柳」の募集・掲示や、ラグビーワールドカップ 2023 ユニフォームの展示を行い、健康・スポーツへの関心を高める努力をしました。</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営を継続していくにあたり、利用者の声を聴くことはとても大事なことだと考えます。

16. 施設の開館日・開館時間等	
提案書 (事-61～62)	業務の基準に基づき、営業時間・窓口対応及び電話対応を行います。
事業実施状況	<p>■開館時間・窓口対応及び電話応答について、業務の基準に基づき実施しています。</p> <p>1 開館時間・施設貸出時間</p> <p>曜日 時間</p> <p>平日 午前9時から21時まで</p> <p>日曜及び祝日 午前9時から17時まで</p> <p>2 窓口・電話応答時間</p> <p>曜日 総合受付窓口応答時間 代表電話応答時間</p> <p>平日 8時30分～20時 9時～20時</p> <p>日曜及び祝日 8時30分～16時 9時～16時</p>
評価委員会 コメント	・提案書どおりの適切な事業内容となっています。

17. 個人情報保護に対する取組	
提案書 (事-64)	<p>横浜市スポーツ協会は、法令・条例を厳格に遵守できるシステムである「プライバシーマーク」(一般財団法人日本情報経済社会推進協会 JIPDEC) から個人情報を適切に取り扱う事業者として平成 20 (2008) 年から認証を受けている法人です。その運用基準に添って個人情報を取り扱うとともに、個人情報保護研修を実施します。万が一、個人情報の漏えい事故が起こった場合は、プライバシーマークマネジメントシステム(PMS)に則り、被害の拡散を防止します。事故発生時は、被害に遭われた方に対する迅速な対応・謝罪を行うとともに、横浜市へ報告し、誠実に対応します。併せて、再発防止のための取組の徹底を図ります。</p>
事業実施状況	<p>■「プライバシーマーク」の認証取得継続 令和 3～5 年度も引続き認証を受けています。</p> <p>■個人情報保護運用体制 プライバシーマークマネジメントシステム(PMS)に則り、半年に一度の自主点検を年 2 回行い、毎年 1 回、内部自主監査を実施しています。</p> <p>■個人情報の取扱いに関する研修 当協会では、毎年、全職員・スタッフ外部人材に対し研修を実施し、個人情報保護の意義・漏洩防止の徹底について個人情報保護の啓発に努めています。(令和 5 年度は 10 月 18 日・20 日に実施)</p> <p>■事故発生時の対応 万が一漏洩した場合は、当協会で定める規則に基づき速やかに対応し、流出先への迅速な個人情報の回収、被害者への対応を行い、遅滞なく横浜市や関係機関への報告を行っています。</p>
評価委員会 コメント	<p>・提案書どおりの適切な事業内容となっています。</p>

18. 情報公開・人権尊重・環境への配慮に対する取組	
提案書 (事-65～66)	情報公開、人権尊重、ハラスメント対策、環境への配慮についてそれぞれの観点から推進をしていきます。
事業実施状況	<p>■情報公開</p> <p>情報開示請求があった場合は、「当協会の保有する情報の公開に関する規程」に基づき、「開示の可否」「開示に係る文書」「開示の日時・場所」「開示方法」を決定し、原則 14 日以内に決定通知書を交付しています。</p> <p>診断書やカルテ開示などの医療関係に関する請求への対応は、原則患者本人と対面により、本人確認を行いながら対応しています。なお、遠隔地や委任等で開示が請求された場合は、本人確認資料及び委任等因果関係が分かる資料を担保する形で対応しています。</p> <p>行政庁からの開示請求への対応については、法律で定められる職権・令状による開示請求に対しては、依頼文等を確認して、公共の利益の観点から原則としてすべて開示対応しています。</p> <p>■人権尊重とハラスメント対策</p> <p>当センターの職員は、人権に対する理解を深め、お互いの人権を尊重し、理解し合えるよう努めています。そのために「横浜市人権施策基本指針」を参考にしながら、毎年度 1 回研修を行っています。</p> <p>令和 5 年度は 10 月 18 日・20 日に研修を実施して、「相手が言われて嫌なことを言わないこと」「相手の立場を尊重して行動すること」「相手のことを理解しようと努めること」の「行動の徹底を呼びかけ、ハラスメントの内職場やお客様対応を実践しています。</p> <p>■環境への配慮</p> <p>当センターでは、「ヨコハマプラ 5.3 計画（ヨコハマ 3 R 夢プラン）」に基づき「ごみと資源の分別」の徹底を図り、「ごみ排出量の抑制」を推進しています。また、リサイクル品（ペーパータオルやコピー用紙等）の購入に取り組んでいるとともに、横浜市が進める LED 化の改修工事に向けて、積極的に調査や現場視察に協力しています。</p>

評価委員会 コメント	<ul style="list-style-type: none">・世の中の人権問題に対する意識は非常に高まっております。ハラスメント等が組織を崩壊させるリスクも高まっています。しっかりとした対策をお願いします。
---------------	---

19. 横浜市の重要施策を踏まえた取組

<p>提案書 (事-67)</p>	<p><横浜市の重要政策を踏まえた取組> 横浜市が推進する重要な政策・計画・方針・施策・事業について、それぞれの策定趣旨等をしっかりと理解・認識し、本提案書の各章でお示しのご提案に活かしました。特に、健康・医療、スポーツ等をはじめ次表に掲げました主な政策・計画等の推進に資するよう、スポーツ医科学センターの管理運営に反映して取り組んでまいります。</p> <p><男女共同参画推進に向けた取組> 「次世代育成支援対策推進法」及び「女性活躍推進法」に基づき、一般事業主行動計画を策定し、女性職員がいきいきと働くことができる職場環境整備に取り組んでおります。</p> <p><横浜市内中小企業への優先発注> 横浜市スポーツ協会契約規則では、原則として、物品調達・業務委託・修繕工事等について横浜市内中小企業から優先的に調達することを定めております。当協会では横浜市の中小企業に対し積極的に発注を行い、横浜市内中小企業の経営発展に引き続き貢献してまいります。また、調達事業者の選定にあたっては横浜市入札参加有資格者から見積書を徴取し、公平・公正・平等に契約事務を履行しております。</p>
<p>事業実施状況</p>	<p>■横浜市の重要政策を踏まえた取組 横浜市が推進する重要な政策である「スポーツ推進基本計画」及び「横浜市地域福祉保健計画」の実現に寄与するために、スポーツ医科学センターは、様々な事業に取り組んでいます。 <u>※詳細はP2～P5に記載しています。</u></p> <p>■男女共同参画推進に向けた取組 令和5年度から事業調整課の課長に女性職員が配属されました。子育てと仕事が両立できる環境整備を進めているため、時短勤務の職員やアルバイト職員の労働時間短縮での契約を行っています。</p> <p>■横浜市内中小企業への優先発注 当協会では協会契約規則に基づいて、横浜市の中小企業に対し積極的に発注を行っています。調達事業者の選定にあたって</p>

	<p>は横浜市入札参加有資格者から見積書を徴取し、公平・公正・平等に契約事務を履行しております。</p> <p>具体的には、コピー用紙等の消耗品・トイレトペーパー等の衛生用品を当協会本部で横浜市内中小業者を対象に入札を実施し、協会が運営受託している他施設とともに一括契約し、横浜市内中小事業者より購入しています。</p>
<p>評価委員会 コメント</p>	<p>・日本における女性活用、ダイバーシティーに対する取組は世界からかなり遅れております。女性だけでなくすべての人が活躍できるように更なる進んだ取組をお願いします。</p>

20. 指定管理期間の収支計画

<p>提案書 (事-70～73)</p>	<p>第3期までの期間は、平成30(2018)年にリハビリテーション科の年間診療者数が、当センター開設から21年目で初めて5万人を越えるなど堅調に推移し、現行施設における運用の上限水準に達してくるなど、量を増やす成長段階から質を高める成熟段階に移行しつつあります。</p> <p>一方で、令和2(2020)年度では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う事業の休止・縮小等によって一時的に利用人数が大幅に減少したうえ、その後の再開・拡大の過程においても、感染防止対策(いわゆる「3つの密」)を講じる中で、従前の利用密度に戻せないなどの制約が生じています。</p> <p>第4期指定管理期間においても先行きが不透明なことが見込まれますが、設備機器・人員配置等の事業実施体制や運用手法の工夫を行うことで、第3期の利用人数の水準を確保できるよう努め、投資と収益の費用対効果を高めた収支計画を策定します。</p>
<p>事業実施状況</p>	<p>■設備機器の更新</p> <p>開館から25年間が経ち、設備や備品の老朽化が目立つことから高額機器(備品)の更新計画(R4～R7)を策定し、横浜市に提出しました。この計画に基づき、予算を配賦していただき、安全な状態を保つように更新しています。</p> <p>■人員配置</p> <p>1 これまでの取組</p> <p>専門職の長期的な育成を図るため、当センターでは、嘱託管理栄養士の固有化、スポーツ科学員の課長昇任、理学療法士の部次長、科長昇任、指導員の部長・課長昇任を実施しました。</p> <p>2 科学員のHSPCへの派遣</p> <p>令和5年度に科学員1名を国立のハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)へ派遣し、HPSCがスタンダードで行っている事業や測定技術を習得し、当センターでの運営に生かすとともに、HPSCとさらに連携して、日本の競技力向上に寄与することを目標としています。</p> <p>3 新規資格取得者1名の実績</p> <p>指導員1名を資格養成講座に参加させて、健康運動指導士の資格を取得しました。</p>

■第3期の利用人数の水準を確保

令和4年度を新型コロナウイルスの流行前の平成30年度と比べると、利用者は3分の2の状態ですが、コロナ禍にあった令和2年度から4年度にかけて右肩上がり、順調に利用人数は増加しています。

横浜市スポーツ医科学センター利用状況の推移

	2年度	3年度	4年度	30年度
SPS	884	1,232	1,223	2,488
外来・リハ	58,981	70,563	81,019	89,568
施設利用	13,669	16,539	38,050	140,022
自主事業	43,924	64,032	70,878	81,888
小計	117,458	152,366	191,170	313,966

■収支計画

新型コロナウイルスの影響により、事業計画書の提案予算から乖離していたため、コロナ禍であった令和2年度から、年度ごとに前年度から3%の収入増加を目標に設定して取り組んできました。

評価委員会
コメント

- ・状況に即応した事業実施は高く評価できる。
- ・開設から25年経っているため、設備機器も新しくした方が安全面でもよいと思います。
- ・コロナ禍前と後とで社会的ニーズも変化していると思われます。しっかりとニーズをくみ取り利用者の増加につながるような事業計画を期待します。その結果として収入も改善してくるものと思われます。

21. 収入増に向けた取組	
提案書 (事-74)	収入の増加に向けては、本提案書でご提案する様々な取組により相乗効果を高めつつ、より一層の財源の確保に努めます。
事業実施状況	<p>■収支改善に向けた取組</p> <p>【収入増の取組】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日曜日のアスリート測定の実施 2 トレーニングルーム利用促進のためスタンプカードの実施 3 高齢者の利用促進のための、濱ともカードのサービス拡大 ※トレーニングルームの割引 4 食品と本格的なコーヒー自動販売機の増設（3台） 5 研修室・会議室の使用用途の拡大（軽スポーツでの実施） 6 実習受入数を増やし、実習費収入を増加させる。 （単価：2,000円／1日・人） R4（14校・22実習）→ R5目標（17校・25実習） 7 2つの教室の増設 骨盤調整教室及びピラティス教室が定員に達したため、 2つの教室を増設しました。
評価委員会 コメント	・利用者のニーズは常に変化していると思われます。しっかりとニーズをくみ取り利用者の増加につながるような事業を期待します。その結果、収入も増加してくるものと思われます。

22. コスト削減に向けた取組	
提案書 (事-74)	コスト削減に向けては、一つ一つの事務事業の効率化を図ることで支出を抑制し、経費の節減を図ってまいります。
事業実施状況	<p>■照明の節電</p> <p>1 総合受付前及びロビー・スポ医科事務所裏廊下 共有部分のため、日産スタジアムと調整した結果、旧図書館エリア及び管理事務所周りの廊下の照明を約半分にして実施しています。</p> <p>2 トレーニングルーム 中央または窓側1列の消灯を実施しています。</p> <p>■空調作動時間の短縮 スポ医科全体の空調作動時間を短縮するために、空調の終了時間を閉館時の21時から1時間前倒しをして、20時に設定しています。</p> <p>■無駄な照明の消灯見回り隊の実施 1日に3回、無駄な照明を見回り時に消灯しています。</p> <p>■被服貸与の延期 2年に1回を、3年に1回の周期に変更して実施しています。</p> <p>■医療材料等の発注 原則、インターネットを活用した電子取引を使用し、発注から納品時間までの効率化を図っています。 例 アスクルを使用した電子取引（発注の翌日に納品）</p> <p>■高額な医療機器の更新 高額な医療機器の更新をする際は、リース契約による入札を実施し、経費の平準化及び経費の削減に努めています。 <リース入札を実施し、更新した医療機器> ・X線骨密度測定装置 ・心臓運動負荷モニタリングシステム ・等速性筋力測定装置</p>

<p>評価委員会 コメント</p>	<ul style="list-style-type: none">・空調作動時間の短縮、無駄な照明の消灯はコスト面だけでなく、地球環境においても大事なことと思います。
-----------------------	--